

観光資源としての世界遺産～平泉と五箇山の比較¹

World Heritage as Tourism Resource: Comparison Hiraizumi with Gokayama

佐藤悦夫

SATO Etsuo

世界遺産のある岩手県平泉町と富山県五箇山の調査に基づき、観光資源としての世界遺産の在り方を検討した。世界遺産のある2つの地域を比較することにより、その共通点、相違点整理し、最終的に五箇山での新しい観光振興の方針を述べた。特に五箇山での観光振興の方向性としては、(1) 五箇山で研究、展示、情報の収集、教育の場として様々な活動ができるセンターの必要性、(2) 新しい観光客層を呼ぶための長期滞在可能な宿泊施設の必要性、(3) 「人と出会う旅」をテーマにした新しいPR内容や新しい魅力の創出の3点を挙げた。

キーワード： 世界遺産、平泉町、五箇山、合掌の里、観光振興計画

1、はじめに

2013年6月に富士山が世界遺産に登録され、日本の世界遺産は17件(文化遺産13件、自然遺産4件)となった。また、2014年には、「富岡製糸場」が世界遺産委員会で審議される予定である。地域社会にとって世界遺産は、その地域のコア観光資源として大きな役割を演じている。世界遺産に登録されたことにより、地域の知名度が上がり、観光客数が増え、その結果経済的利益がもたらされることが期待される。一方観光客の増加による環境問題、地域住民と観光客間のトラブル、交通渋滞等の問題、地域社会における観光従事者と観光に携わらない人々との間に生まれる問題などの観光による弊害もまた生じる。

世界遺産のある地域の観光振興の問題は、地域によって異なることは言うまでもない。しかしながら、2つの地域を比較して観光資源や観光振興策の共通点、相違点を明確にすることは可能である。本稿で取りあげた岩手県の平泉町と富山県の五箇山地域は、世界遺産に登録された遺産のみならず、地域にある様々な文化資源や自然資源を活用して、地域振興を図ろうとしている地

¹ 本稿は、2014年1月23日に富山県南砺市における「北陸・飛騨地域の伝統的文化・自然資源の観光的価値に関する研究」&北陸新幹線開業に向けた「南砺市のおもてなし」について考えるセミナーで発表した内容を基に執筆した。

域である。2つの地域を比較しながら新しい観光振興の在り方を検討したい。さらに、五箇山のマスタープランでの考え方、筆者の調査などを基に、五箇山の観光振興の方向性や観光地としての質の在り方を検討する。

2、平泉の観光の現状と今後の取組み

2-1 平泉町の観光の現状と課題

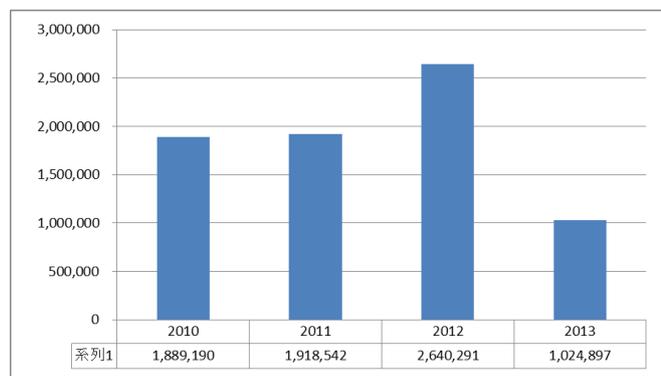
(1) 観光客の入込数の現状

平泉の観光客入込数は1985年から200万人を超え、1989年から1995年までは250万人前後と推移した。1998年から2004年までは170万人と低迷するが、2005年に放映されたNHKの大河ドラマ『義経』などの影響により近年は200万人規模まで回復した(平泉町資料 2013a)。

2011年の入込数は東日本大震災が発生した直後には激減するものの、6月に中尊寺など5つの物件の世界遺産への登録が決定されたため²、その効果によって持ち直し、2010年並みの数の観光客が訪れた。2012年には世界遺産登録の効果が大きく出たことで過去2番目入込数となる264万人に達している。2013年の入込数のデータは1月から6月までのものであるが、最終的には年間で200万人を超える見込みであり、2011年の世界遺産効果は続いていると思われる(図1)。

月別で見るとゴールデンウィークのある5月の入込数が最も多いことがわかる。またお盆休みのある8月から11月にかけても増加する。1月の初詣シーズンにも観光客は訪れているため1月の入込数は毎年多いが、それに対して12月、2月、3月の寒い時期は雪の多い地帯であり、他の時期に比べて落ち込みも大きい(図2)。

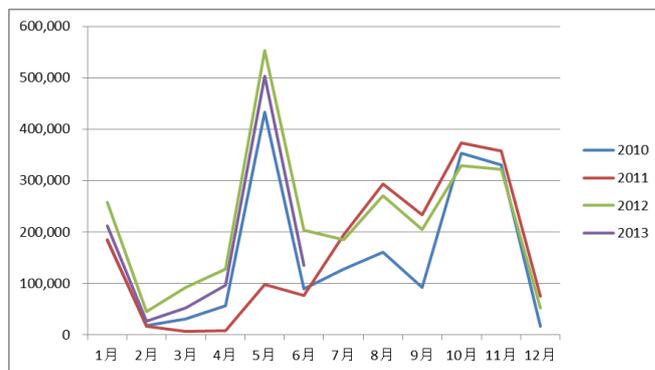
図1：平泉町の入込数(単位：人)



(出所：平泉町 2013a)

(註：2013年のデータは1月～6月のもの)

図2：平泉町の月別観光客の入込数(単位：人)



(出所：平泉町 2013a)

(註：2013年のデータは1月～6月のもの)

²：2011年6月に「平泉～仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群～」として世界遺産に登録された。その構成資産は、中尊寺、毛越寺、観自在王院、無量光院跡、金鶏山の5つである(岩手県 2013)。

(2) 主な観光資源

表1：平泉の主な観光資源

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 名称 | |
|----------|-------------------|--|---|---|
| 観光 地点 | 自然 | 山岳 | 金鶏山 (世界遺産) | 中尊寺と毛越寺のほぼ中間に位置する円すい状の山。頂上には経塚があり、「平泉を守るため黄金の鶏を埋めた」や「北上川まで人夫を並べ、一晩で築いた山」などの伝説が残っている。 |
| | | 記念・資料館 | 世界文化遺産センター | 世界遺産に登録された「平泉の文化遺産」、その概要をわかりやすく紹介するガイド施設、町内観光のビジターセンターとして、平泉の歴史文化を幅広く紹介している。また、発掘調査で出土した、重要な考古資料を多数展示している。 |
| | 柳之御所資料館 | | 柳之御所遺跡は、奥州藤原氏の政治拠点「平泉館」の跡と推定されている。その広大な敷地から大量に出土した、貴重な考古資料と充実した解説パネルで、遺跡の概要をわかりやすく紹介している。 | |
| | 歴史・文化 | 史跡 | 達谷窟 | 坂上田村麻呂が征夷の記念に毘沙門天を祀った岩窟。懸崖造りの毘沙門堂は、火災のために建て直された。平安時代造像の丈六不動明王像(県指定文化財)や北限といわれる「岩面大佛」(磨崖仏)もある。境内全域が史跡指定。 |
| | | | 観自在王院 (世界遺産) | 二代基衡公の妻が建立したと伝えられる寺院跡。ほぼ完全に残っている浄土庭園の遺構は平安時代に書かれた日本最古の庭園書『作庭記』の作法どおりと考えられている。池の北岸に大阿弥陀堂と小阿弥陀堂が設けられていたことから、極楽浄土を表現した庭園と考えられている。 |
| | | | 無量光院跡 (世界遺産) | 三代秀衡公が、宇治平等院の鳳凰堂を模して建立した寺院跡。調査の結果、阿弥陀堂の柱間や翼廊の左右が鳳凰堂より大きく、平等院を超えようとした意欲が感じられる。建物の中心線は西の金鶏山と結ばれており、その稜線上に沈む夕日に極楽浄土をイメージした、浄土庭園の最高傑作といわれている。 |
| | | | 柳之御所遺跡 | 高館の麓から北上川沿いに段丘が広がるこの一帯は、古来、藤原清衡・基衡の屋敷跡と伝えられてきた。 |
| | | | 高館義経堂 | 高館は中尊寺の東方にある丘陵で、判官館とも呼ばれている。源義経公最期の地と言われる高館には義経堂が建ち、弁慶が立ち往生した衣川が望まれ、眼下には北上川が静かに流れている。 |
| | | | 神社・仏閣 | 中尊寺 (世界遺産) |
| | 毛越寺 (世界遺産) | 毛越寺は慈覚大師円仁が開山し、藤原氏二代基衡公から三代秀衡公の時代に多くの伽藍が造営された。往時には堂塔40僧坊500を数え、中尊寺をしのぐほどの規模と華麗さであった。 | | |
| | 達谷西光寺 | 802年奥真人上人によって開かれた古刹であり史跡に指定されている。 | | |
| | 健康・温泉 | 温泉地 | 平泉温泉 | |
| | スポーツ | キャンプ場 | 大文字キャンプ場 | |
| | | | 金鶏山麓キャンプ場 | |
| | 都市型観光 | 食・買い物・グルメ | 45件の飲食店、お土産店 | |
| | | | | |
| 行祭事・イベント | 行祭事 | 中尊寺節分会 | 2月3日、中尊寺本堂 | |
| | | 中尊寺西行祭短歌大会 | 4月29日、中尊寺 | |
| | | 毛越寺あやめ祭り | 6月20日～7月10日、毛越寺 | |
| | | 平泉水かけ神輿 | 7月下旬、平泉町内 | |
| | | 平泉大文字送り火 | 8月16日、平泉町内(東稲山) | |
| | | 毛越寺二十日夜祭 | 1月20日、毛越寺 | |
| | 郷土芸能 | 春の藤原まつり | 5月1日～5月5日、平泉町内 | |
| | | 毛越寺曲水の宴 | 5月第4日曜日、毛越寺 | |
| | | 平泉芭蕉祭全語句俳句大会 | 6月29日、中尊寺または毛越寺 | |
| | | 中尊寺新能 | 8月14日、中尊寺 | |
| | | 初詣 | 元朝詣り | 1月1日、中尊寺、毛越寺、達谷西光寺 |
| | | 花見 | 毛越寺萩まつり | 9月15日～30日、毛越寺 |
| 中尊寺菊まつり | 10月20日～11月15日、中尊寺 | | | |
| 秋の藤原まつり | 11月1日～11月3日、平泉町内 | | | |

(出所：平泉 2013b 一部改変、平泉観光協会 HP、<http://hiraizumi.or.jp/heritage/index.html>)

平泉の観光資源は豊富であり、自然、歴史・文化、温泉、スポーツ、都市型観光、行祭事・イベントと各分野にわたって資源が存在する(表1)。また、これらの主要な観光資源とは別に、地域住民が選出した「平泉再発見絵図～あなたに伝えたい、とっておきの平泉」という簡単な地図を作成している。この地図には観光客があまり行かない北上川東側地域の資源や町の中心部では、「毛越集落」と呼ばれる毛越寺の僧侶が住む集落などが紹介されている。

また、日本の世界遺産の中での位置づけでは、首都圏住民約1万人の調査によると、「平泉」の来訪経験者は17.6%、今後の来訪意向は23.2%と平均値を若干下回っている(平泉町2013c)。今後も団体客は、従来通り「中尊寺」や「毛越寺」の観光を目指して来訪すると思われるが、個人客は、「中尊寺」や「毛越寺」以外の観光資源を見学する可能性は高い。観光客の数としては少ないが、それぞれの観光客の興味に応じたPR戦略や情報提供が必要であろう。

(3) 観光振興における課題

平泉町は、観光振興の課題として次の10項目を挙げている(平泉町2013b)。

①観光客の8割が平泉町観光に満足している状況に対する誇りの醸成

地元地域みずから自身を持って観光客を迎えるために、観光客と地元住民が接する機会、交流する機会を積極的に創出し、住民自ら観光客の反応を聞き、感じることができるようにする。

②「中尊寺」と「毛越寺」、その他の3資源との格差の是正

観光客の来訪は「中尊寺」と「毛越寺」に偏っており、「金鷄山」「無量光院」「観自在王院」への来訪は少ない。従って、「中尊寺」の求心力を活用し、それを「毛越寺」や「平泉文化遺産センター」に導き、さらにその他の資産まで周遊させる施策が必要。

③地元のお勧め度が高い「達谷窟毘沙門堂」と「高館義経堂」の活用

「巡回バス」や「レンタルサイクル」を使って世界遺産巡りとセットで訪れてもらうようにアピールする。

④地元のお勧め度が高い「源義経公東下り行列」「毛越寺曲水の宴」「中尊寺薪能」など、体験した人には高い満足度を与える祭・イベントの活用

祭・イベント関係は、集客効果としては一過性である。しかし、模擬的に体験できるまたは雰囲気を楽しめる空間、機会³があれば一過性の弱点が克服できる可能性がある。

⑤住民から期待が高い「経済波及効果を高める取組み」の推進

消費を促すお土産や料理メニューの開発やお土産などの買い物が楽しめる消費機会の提供などが急務である。また地域農産品を活用した西洋料理やスイーツ開発などを探る。

⑥「着地型旅行商品」の開発、提供による地域の一体化

平泉観光旅行では、8割の観光客が日帰り、あるいは平泉以外の観光地での宿泊であるので、滞在時間が短く、結果として十分な経済波及効果が得られない状況にある。そこで、観光関係者のみでなく、農業関係者、地域住民などが主体となった着地型旅行商品⁴の開

³ : 例えば、祭イベントの映像を見ることができる、衣装を着ることができる、夜になると薪がたかれる、雅楽の音色が聞こえる、等が挙げられている(平泉町2013b)。

⁴ : 具体的には、観光ガイドとともに町めぐり、座禅や写経、秀衡塗の体験、平泉ならではの食事を堪能する、

発が望まれる。

⑦周辺市町村・県内と機能連携、広域でのルート連携、全国・世界でのテーマ連携

グリーンツーリズムや農家民泊などで宿泊客を増加させると同時に近隣市町村と連携し、観光圏として旅行者の宿泊、滞在を促進させる。また、世界遺産というテーマで全国レベル、世界レベルの連携の可能性を探る。

⑧訪日外国人旅行者の受け入れ推進による観光客の量的確保と地域アイデンティティの構築

訪日外国人旅行者の受け入れを推進することは、地域経済への波及効果以外に、地域住民にとっては「世界に認められた平泉」を実感することにもなり、さらに国内観光旅行マーケットに対しても「世界から観光客が来ている平泉」としてのイメージ向上、あるいはブランド育成にも貢献する。

⑨渋滞対策や環境美化、誘導・案内板による的確な誘導

平泉の観光関係者とその他の住民では明らかに観光客に対して温度差があり、観光関係者以外の住民は観光客の増加に不満を持っている。駐車場や車の導線の再検討を行い、観光客の利便性の向上のみでなく、住民の利便性を考えた標識や案内の整備を行う。

以上のように、平泉町が指摘している平泉の観光振興における課題は広範囲に及ぶ。筆者は、2011年から2013年にかけて4回ほど平泉に入り、聞き取り調査や町歩き調査を行なった。そこから見えてきた課題を次のように整理した。

①世界遺産を構成する資産の魅力の向上

世界遺産を構成する5つの資産の中で、観自在王院、無量光院跡、金鶏山の魅力が他の2つの資産と比較してやや不足する。現在、無量光院跡は発掘調査中であり、調査終了後は日本庭園の復元ならびに建造物の復元が望まれる。また、世界遺産の構成資産から外された柳之御所についても、現状では建造物の柱の跡しか残っていないが、将来的には建造物の復元が必要と思われる。

②町全体を回遊させる

町全体を観光客に回遊させるためには、主要な観光資源のみならず地元の人知っている特別な場所のような観光資源の情報提供が重要である。情報提供する手段としては、FaceBookのような電子媒体での提供考えられるが、観光客の意見、地元住民の声などを反映し、また観光者本人の想いで写真やスケッチなどを記入できる様式の紙媒体の小冊子が良いのではなかろうか⁵。

③平泉ブランドの明確な差別化

「平泉」という名称は認知度も高く、2013年の8月には「平泉ナンバー」の導入も国土交通省により決定された。また、平泉商工会が認証する地域ブランドには、食品やお菓子、工芸品などが含まれ、平泉の名前を商品名につけた商品も数多くある。しかしながら、単に「平泉」の名前を付けたからと言って必ずしも商品が売れるわけでもなく、食品そのもの、容器、ラベル等を

平泉の農村風景を楽しむ、等の企画が考えられている（平泉 3013b）。

⁵ : 個人で海外旅行をするときは、『地球の歩き方』が必携の情報誌として多くの観光客が持って行く。地球の歩き方には実際その地を訪れた観光客の声や評価なども多数記載されている。筆者は、『世界遺産の歩き方：平泉』（仮称）のようなシリーズ本を考えており、それは『るるぶ』などの情報雑誌とは異なり、観光情報の提供と同時に観光者本人が文章や写真、スケッチなどを書き込める冊子で、旅が終わるときには観光者本人のオリジナルの情報冊子ができあがる仕組みである。

含めて他との差別化が必要である。

④冬季の観光客を増やす

図2のグラフでもわかるように平泉は冬季の観光客の入込数は少ない。行政側は、雪のスリップによる観光客のけがなどを心配しているようであるが、北陸地域をターゲットにしたPRなども考えられる。雪の毛越寺の庭園なども魅力的である。

⑤訪日外国人の受け入れ

訪日外国人の受け入れ推進において、量的確保の視点では団体で来訪するアジア系の外国人の誘客が考えられるが、むしろ個人や小グループで来訪する欧米系の外国人の誘客を推進する方が、観光地としてのイメージ向上につながると思われる。さらに、彼らの宿泊先として安い料金で泊まれる宿や農家民泊などを組み合わせ、長期滞在を可能にさせるとさらに「世界に認められた平泉」を実感できる。

2-2 平泉町の観光振興計画の取組み

平泉町は、上述した観光の課題を解決し観光振興政策を推進するための基本方針として、次の4点を挙げている（平泉町 2013b）。

- (1) 平泉観光による地域ブランドの育成
 - (1)-1 自ら誇れる、住民参加型の観光地づくり
 - (1)-2 平泉ブランドの育成と産業のとしての観光振興
 - (1)-3 情報発信、誘客プロモーションの実施
- (2) 平泉観光の満足向上、質的向上
 - (2)-1 地域特性を活かした観光・交流機能の拡充
 - (2)-2 観光客の受入環境整備
- (3) 世界に開かれた観光地づくり
 - (3)-1 訪日外国人旅行者の受け入れ推進
 - (3)-2 国際交流の促進、可能性の検討
- (4) 多様な交流・連携の促進
 - (4)-1 広域観光体制の促進
 - (4)-2 観光推進体制の強化

これらの項目に関して、すでに取り組んでいる施策と新規に行う施策があり、詳細な施策の内容、推進主体などの計画は出来上がっている。平泉の強みは、豊富な文化遺産（坂上田村麻呂関係の遺産、奥州藤原四代関係の遺産、源義経関係の遺産、松尾芭蕉関係の遺産、祭・イベント）、平泉の Name Value の高さ、景観条例に基づく環境美化等である。これらの強みを活かし、質の高い観光客を呼べる観光地を目指すべきである。

3、五箇山の観光振興計画の現状と課題

3-1 五箇山の観光の現状と課題

富山県と岐阜県の県境にある五箇山地域は、1995年に「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として

世界遺産に登録された。1995年から2011年までの五箇山地域の入込み数の動向を見てみると、当地域には毎年70万～80万人前後の観光客が訪れている。1996年は、当地域が世界遺産に登録された影響もあり前年比46.7%増の901,000人の観光客が訪れた。五箇山地域の観光資源の特徴は、豊富な歴史・文化資源、スポーツ関連施設、温泉、伝統芸能を中心とするイベントなどである（表4）

2008年から2010年までの五箇山地域での観光客動向調査や2011年に実施したヒアリング調査をもとに、五箇山地域の抱える課題は次のように整理できる（佐藤 2012a）。

①観光客が世界遺産に登録されている菅沼集落や相倉集落に集中し、他の観光資源へのアクセスが少ないので、五箇山地域全体に観光客を回遊させる（点から面へ）。

五箇山地域には2つの合掌集落以外にも、岩瀬家や村上家を代表とするような合掌造りの家屋、道の駅上平（ささら館）や道の駅たいら（和紙の里）などの観光資源があるが訪問客も少なく、また観光客の滞在時間2時間程度と短い。また、それぞれの合掌造り家屋の特徴を解説したパンフレットなどはあるが、五箇山全体の文化資源に関する情報が少ない。今後は、五箇山全体の文化を把握するために、五箇山の歴史や民俗、あるいは越中桂のように消滅した合掌集落などに関する情報をまとめた冊子や展示が必要である⁶。

②少子高齢化に伴う人口減少に対する対策（他者との連携を促進する）

少子高齢化が進み、合掌集落の維持が困難になりつつある（表2、表3）。合掌集落だけでなく、五箇山地域全体の観光まちづくりを行い、雇用を創出し、地元の若者が五箇山で生活できる環境が必要である。

表2：相倉集落、菅沼集落の人口

| | 1995年 | 2012年 |
|------|----------|----------|
| 相倉集落 | 88人(25戸) | 54人(17戸) |
| 菅沼集落 | 39人(8戸) | 27人(5戸) |

（出所：南砺市 2012、一部改変）

表3：旧平村地域、旧上平地域の人口

| | 1995年 | 2012年 |
|-------|--------|--------|
| 旧平村地域 | 1,620人 | 1,068人 |
| 旧上平地域 | 1,016人 | 740人 |

（出所：南砺市 2012、一部改変）

五箇山では、このような課題を解決するために外部との連携に取り組んでいる。例えば、2012年9月には、五箇山菅沼種楽保存顕彰会とNEXCO中日本がカヤ場保存のための協力協定を結んだ。これにより2014年までの3年間、合掌家屋の屋根を葺くのに欠かせないカヤを刈ったり植えたりする保全活動を協働で行う予定である（佐藤 2012b）。今後は、大学や行政と連携しながら新しいコミュニティビジネスの創出や五箇山の歴史的価値の再評価などの事業も考えられる。

⁶ 五箇山には、歴史や民俗に関する豊富な資料があるが、それらをまとめ、五箇山の歴史や民俗を集約した資料や博物館のような施設がない。平泉では、平泉文化遺産センターのような施設や平泉文化遺産センターが編集した『平泉～光と水の浄土』のような一般向けの解説本がある（平泉文化遺産センター 2012）。

表 4 : 五箇山の代表的な観光資源

| 大分類 | 中分類 | 名称 | 内容 |
|----------|--------------------|--|--|
| 観光地 | 自然 | 桂湖 | |
| | 歴史・文化 | 相倉合掌造り集落 (世界遺産) | 23戸の合掌造り集落。1970年に国指定史跡になり、1995年12月には「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界文化遺産に登録された。 |
| | | 菅沼合掌造り集落 (世界遺産) | 1970年、国指定史跡となり、1995年12月に「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界遺産に登録された。この合掌造りの特徴は、急勾配の屋根、五箇山の厳しい気候と、風土によって生まれた暮らしの知恵。現存する合掌家屋は9棟あり、うち2棟は江戸時代に建てられたものである。 |
| | | 村上家 (国指定重要文化財) | 五箇山合掌造りの典型を今に伝え、1958年に国重要文化財に指定された。約400年前の建築当時の様式を伝える貴重な合掌造り家屋で、民族資料なども展示している。 |
| | | 岩瀬家 (国指定重要文化財) | 1958年に国重要文化財に指定された五箇山最大の合掌造り。今から約300年前に当時越中の豪族藤井長右衛門が8年かけて建設したもの。岩瀬家は総体的に木割が太く、材料にはすべてケヤキを用い仕上げが精良なことから、五箇山地方の民家としては最も発達した合掌造りの形式を示している。 |
| | | 白山宮 (国指定重要文化財) | 奈良時代、泰澄大師によって開かれ、文亀2年(1502)の再建棟札を現存している。本殿は県内最古の木造建築で、1958年に国の重要文化財に指定された。正面の装飾彫刻・葺葎が有名である。 |
| | | 流刑小屋 (県指定重要文化財) | 江戸時代の五箇山はその険しい地形から加賀藩の流刑地にもなった。この流刑小屋が現存する田向地区もその一つで罪の重い知能犯がここに入れられた。昭和38年の豪雪で倒壊したものを昭和40年に復元。県指定文化財となった。 |
| | | 相倉民俗館・相倉伝統産業館 | |
| | | 五箇山民俗館 | 改造が最も少なく、五箇山随一の均整美のとれた合掌造り。生活用具や娯楽用具、衣類など展示。 |
| | | 塩硝の館 | 塩硝の原料であるヨモギ、麻、サク等の採取から、積み込み灰汁塩硝煮詰め上煮塩硝作り、出荷までの過程を人形や影絵などで分かりやすく再現。 |
| | | 南砺市立平郷土館・道の駅たいら | 合掌造りの館内で、五箇山和紙すきにチャレンジできる。和紙すきの他、各種体験を通じて、五箇山伝統産業を学ぶことができる。 |
| | 行徳寺・行徳寺遺徳館 | 行徳寺は蓮如上人の高弟、赤尾道宗が室町時代末期に開いたお寺。山門は約300年前の建築とみられ、堂々とした風格。庫裡は合掌切妻造りで江戸末期の建築。また道宗遺徳館は、道宗にまつわる宝物や棟方志功画伯の版画などが展示されている。 | |
| | ささら館 道の駅上平 | | |
| | 温泉・健康 | くろば温泉 | |
| | | 新五箇山温泉 ゆ〜楽 | |
| | スポーツ | たいらスキー場 | |
| | | タカンボースキー場 | |
| | | たいらクロスカントリー場 | |
| | | カヌー | 桂湖 |
| 都市型観光 | 28件の飲食店、お土産物店 | | |
| 行祭事・イベント | 四季の五箇山「雪あかり」 | 1月～2月、岩瀬家&菅沼合掌造り集落 | |
| | ラスキーフェスタ | 2月中旬、たいらスキー場 | |
| | 相倉集落ライトアップ | 3月上旬、5月中旬、7月中旬、9月中旬、11月中旬、相倉合掌造り集落 | |
| | 四季の五箇山「春の宵」 | 5月下旬、菅沼合掌造り集落 | |
| | 桂湖つり大会 | 6月予定、桂湖 | |
| | たいらクロスカントリー大会 | 8月下旬、小栗栖クロスカントリー場 | |
| | 白山宮 こきりこ踊り特別披露 | 8月20日～9月4日、白山宮境内 | |
| | 五箇山麦屋まつり | 9月23日、24日、下梨地主神社 | |
| | こきりこ祭り | 9月25日、26日、白山宮境内 | |
| 五箇山和紙まつり | 9月下旬～10月上旬、五箇山和紙の里 | | |

(出所：五箇山総合案内所のホームページ、<http://www.gokayama-info.jp/>を基に作成。また、各施設のホームページも参照した)

3-2 五箇山の世界遺産マスタープランに見る今後の方向性

2012年10月に『南砺市五箇山世界遺産マスタープラン』（以下、マスタープラン）が出版された（南砺市 2012）⁷。全体で8章からなるマスタープランの構成は、①マスタープランの目標や推進体制に関する部分（1章、8章）、②資源の保存や継承に関する部分（2章、3章、4章、6章）、③資源の活用（観光）に関する部分（5章、7章）に分類できる。

7章は、今後の五箇山の地域づくりに関する章であり、筆者の考える課題と関連がある（南砺市 2012：67）。マスタープランによると今後の五箇山の地域づくりの方針と方策は、次の8項目にまとめられている（南砺市 2012：66-69）。

- 伝統文化の継承、価値の普及教育分野
 - （1）世界遺産の保護意識の醸成
 - （2）合掌造りの集落や世界遺産の価値を伝える教育プログラム
 - （3）次世代への伝統文化の継承
 - （4）地域資源の記録調査の一体的蓄積
- 世界遺産を支える「地域力」の確保分野
 - （1）世界遺産の保護・情報発信・観光客の受け入れに関わる雇用の創出
 - （2）公共交通の拡充による移動性（モビリティ）の向上
 - （3）地域資源に根ざした「ものづくり」の再構築
 - （4）五箇山全体での定住の促進

以上のように五箇山の合掌集落を地域で支えるためには、文化財としての世界遺産の保護施策にとどまらない、五箇山全体で多様な取り組みが必要なこと、さらに質をたかめながら、住み手が誇れるような地域づくりに取り組むことが述べられている。

4、平泉との比較から見える五箇山の今後の観光振興の方向性

五箇山における観光振興の方向性として次の3点が考えられる。

（1）五箇山世界遺産センター（仮称）の建設

五箇山では、平泉にあるような五箇山の文化を一体的に集約し、発信するような施設がない。仮に「五箇山世界遺産センター（仮称）」のような施設ができれば、研究、展示、情報の収集、教育の場として様々な活動ができる。合掌集落の中には新しい建造物は建設できないので、高速バスの停留所にもなっている、「合掌の里」が施設建設の候補として挙げられる。

（2）新しい観光客層を呼ぶための長期滞在可能な宿泊施設

「合掌の里」に学生や外国人の旅行者が1週間～1カ月ほど滞在できるような低料金で宿泊できる施設があれば、旅行者同士が交流したり、旅行者と地元住民が交流したりしながら旅行者が五箇山の文化や人を学べる場として機能するだろう。

かつてアメリカの歴史学者ブーアスティンはアメリカの近代観光を次のように批判した（ブー

⁷ 白川郷のマスタープランは2010年12月に出版されている（白川村 2010）

アスティン 1964 : 91) 。

今日の多くのアメリカ人が「旅行」するが、文字通り古い意味での旅行者はごく少数なのである。旅行の便宜が増大し、改善され、安価になるにつれて、ますます多くの人々が遠くへ旅行するようになった。しかし、目的地へ行くまでの経験、そこでの滞在の経験、そしてそこから持ち帰ってくるものは昔とは全く異なってしまった。経験は希薄化され、あらかじめ作り上げられたものになってしまった。

五箇山が呼ぶべき若者や外国人観光客とは、数は少ないが、ブーアスティンが評価する旅の原点を求めるような人々ではなかろうか。旅とは元来苦勞を伴いながら学習したり、自己を見つめなしたりする活動であった。五箇山は、山間の村で合掌家屋を守り続けてきた人々が生活している場である。このこだわりを持って生きてきた人々と出会い交流でき、旅の原点を感じることでできる観光地を目指すべきと思われる。

そのためには、二次交通の整備、五箇山地域内での移動手段の確保（電動自転車、コミュニティバス等）、遊歩道の整備など自家用車で来ない観光客のための移動手段の整備も必要である。

(3) 新しい五箇山の PR 内容

従来の五箇山の PR 内容は、「美しい風景」を訴えるようなポスターやパンフレットであった。今後は「美しい風景」だけでなく、「こだわりを持った人々との出会い、交流」をテーマに新しい五箇山の PR 内容を考えるべきである。「人」が観光資源の中心となる時、その人が作り出す製品、料理、その人が住む家などその人の活動そのものもまた観光資源となりうる。モノや景観だけではない、新しい五箇山の魅力が創出される。

五箇山が目指すべき観光振興の方向は、「ゆるキャラ」や「B級グルメ」などで誘客するのではなく、伝統文化の継承地としてそこに住む住民の伝統文化に対する「想い」や「誇り」を観光客に伝える場としての五箇山というイメージで誘客することである。

参考文献

岩手県

2013『平泉～仏国土（浄土）を表す建築・庭園および考古学遺跡群～』岩手県

佐藤悦夫

2012a 「世界遺産・五箇山の観光の現状と課題」、中島恭一・田広林監修、東アジア交流プロジェクト編『東アジアの交流と地域の発展』、pp.237-257、桂書房

2012b 「世界遺産・五箇山地域の観光資源の保全と活用に関する考察」『第23回全国学術研究大会 発表要旨』 pp.17-20

2014 「世界遺産の保全と活用に関する平泉の取組みと五箇山」（富山県南砺市におけるセミナー発表）

白川村

- 2010 『白川村世界遺産マスタープラン』 白川村
南砺市
- 2012 『南砺市五箇山 世界遺産マスタープラン』 南砺市
平泉町
- 2013a 「観光客の入込数」 平泉町
- 2013b 『平泉町観光振興計画』 平泉町
- 2013c 『平泉町観光振興計画概要版』 平泉町
平泉文化遺産センター
- 2012 『平泉～光と水の浄土』 平泉町
ブーアスティン、D.J
- 1964 『幻影の時代～マスコミが製造する事実～』（後藤和彦・星野郁美 訳）東京創元社